

# いしづち

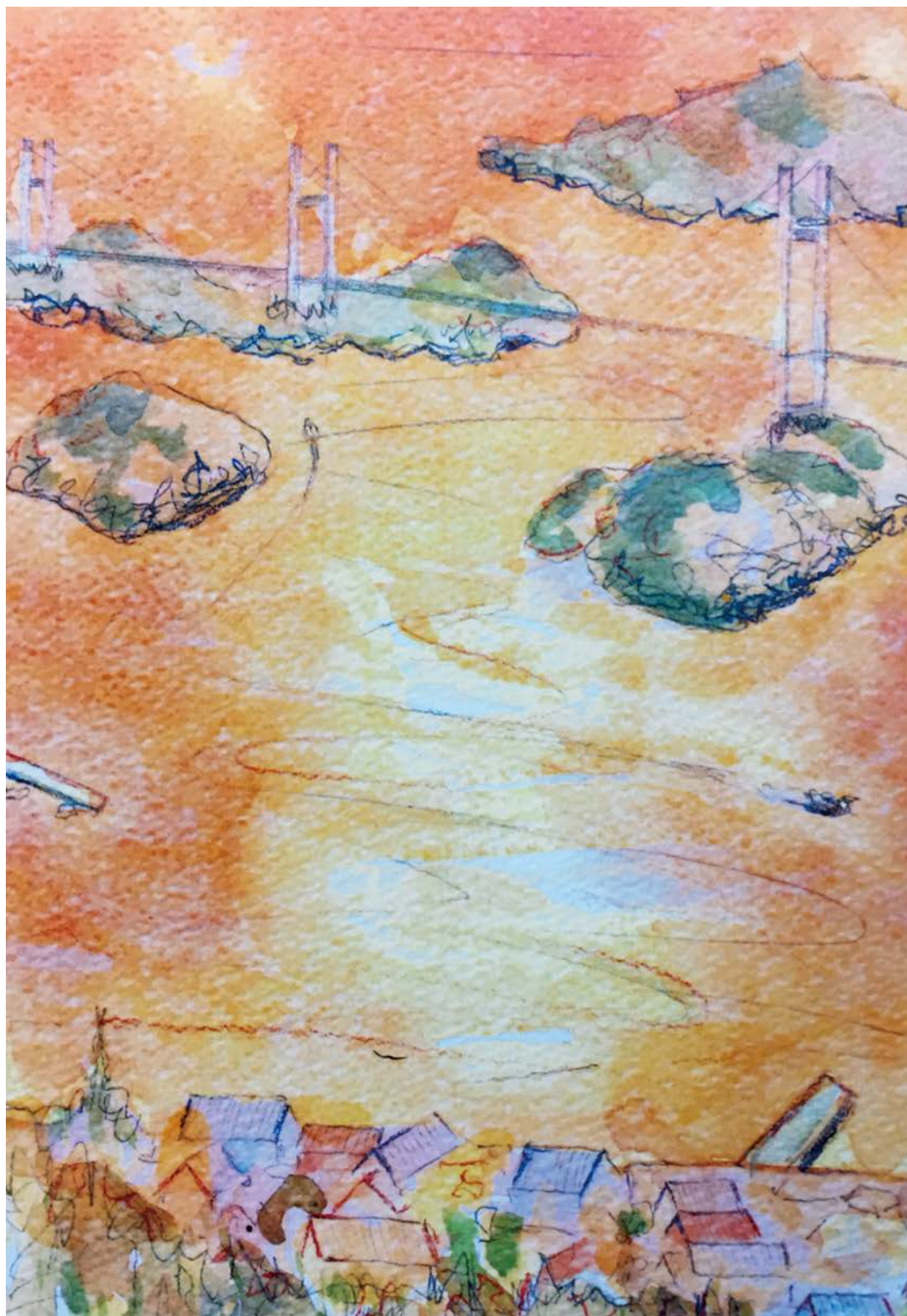
2018.11

No.125



公益社団法人 愛媛県建築士会

<http://www.ehime-shikai.com>



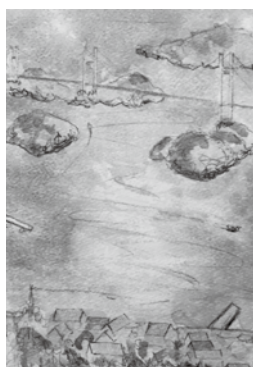
伝統建築物 大庄屋・堀内家

スケッチ紀行 港の風景、船の建築、建築の船

建築士の日の行事報告

1	伝統建築物	大庄屋・堀内家	文化財・まちづくり委員会委員	酒井 純孝 ……①
2	スケッチ紀行	港の情景～船の建築～建築の船	松山支部	安藤 雅人 ……④
3	建築士の日の行事報告	ストリングアートをを用いたものづくり体験 建築相談など パネル展示・保育所園児塗り絵展示・建築無料相談 高須海岸漂着ごみ清掃奉仕活動 丹原七夕まつりin耐震診断、耐震改修アピール活動 無料住宅相談 建築巡礼inまつやまX  安全安心なまちづくり・建築士の仕事のアピール活動 建築士の日の行事 「夢のまち宇和島 絵画展」行事報告	四国中央支部長 新居浜支部 西条支部長 西条支部 西条支部 今治支部副支部長 松山支部 松山支部 伊予支部長 八幡浜支部 宇和島支部青年部	尾藤 淳一 ……⑤ 和田 卓巳 ……⑥ 元根衆三郎 ……⑥ 越智 忠美 ……⑦ 越智 忠美 ……⑦ 曾我部 準 ……⑧ 武内 邦彦 ……⑨ 大塚美由紀 ……⑨ 濱本 浩 ……⑩ 安藤 嘉晃 ……⑩ 二宮 正行 ……⑩
4	委員会報告	平成30年度中四国ブロックまちづくり委員長会議 とびだせ建築士in東予高校「橋を作ろう」 とびだせ建築士(中予)「平成30年7月豪雨災害ボランティア」 二級建築士設計製図試験受験者のための見学会 一級建築士設計製図試験受験者対象の参考事例見学会 マリソレジャーとBBQを楽しもう!! 平成30年度中四国若手建築志(士)交流会inひろしま 第28回全国女性建築士連絡協議会に参加して スキルアップセミナー2018 「地震に負けない家造り～人と財産を守るために～」	文化・まちづくり委員会 青年委員会委員 青年委員会副委員長 松山支部 松山支部 松山支部 松山支部 女性委員会委員 女性委員会委員	眞田井良子 ……⑫ 国宇順一郎 ……⑬ 長岡 康広 ……⑭ 近藤 岳志 ……⑯ 近藤 岳志 ……⑰ 辻川晃太郎 ……⑱ 武智 良太 ……⑲ 永井 由起 ……⑳ 叶 貴美 ……㉑
5	けんちくの輪	建築士会入会を通して自分にできること 建築と私	四国中央支部 松山支部	受川 亮太 ……㉒ 内田 香織 ……㉓
6	お知らせ	平成30年7月豪雨災害の義援金の報告 建築士会館の建替え工事が始まりました。 第4・5・6回理事会概要報告		事務局 ……㉔ ……………㉔ ……………㉔
7	ブレイクコーナー	short short story 「HOUSE」 第二話 Kitchen		田真 夕楽 ……㉙

※ 尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



**水彩画**

題：「しまなみ」  
上田 勇一

**【表紙画について】**

1999年5月1日に橋梁すべての整備が完了し、一般的にはこの時点が、しまなみ海道の開通と見なされている。サイクリングロードとしての人気が高く、瀬戸内しまなみ海道サイクリング尾道大会やスタンブラリーなど、定期的にサイクリングイベントが行われて国際的な注目も集まっている。2014年5月にはCNNで「世界で最も素晴らしい自転車道の1つ」として紹介された。

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

- 1974 東京生まれ
- 1980 小学校から高校まで松山在住
- 1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
- 1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞  
(愛媛県建築士事務所協会主催)
- 1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
- 1996 日本工業大学建築学科 卒業
- 1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
- 2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」  
(新潮社)の装丁担当
- 2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
- 2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」收藏される
- 2015～2017 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
- 2017 絵画教室やオリジナルブランド額工房「樹リチェルカ」を設立  
「えひめの塗り絵」を出版  
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。  
現在、現代日本美術会 会員/審査員

# 大庄屋・堀内家

1  
伝統建築物

文化財・まちづくり委員会委員 酒井 純孝



大庄屋・堀内家長屋門



長屋門と納屋と蔵

西予市卯之町田之筋に万民のために取組んだ大庄家・堀内家があります。

宇和島伊達藩領地の西予市卯之町田野中村で代々庄家を勤めていた大庄家で、江戸時代、明治時代に飢饉が度々発生して飢餓に苦しんだ時代だそうです。

当時の第31代当主堀内清士は、明敏な頭脳と人情深く、また胆力のある方でした。田野中から流れる宇和川の支流、岩瀬川流域は水田が年々枯渇して、農民が窮乏している姿を見て、溜池構築の必要性を痛感し、10人の同志を説得し、官の許可を受けて、現在の松蔭池（まつかげいけ）の地に自ら鍬を打ち込んだそうです。明治10（1877）年の春の事です。

まず木を切り、土を掘り、岩を砕く。この時代は機械が無く一つ一つ人力で作業を行った。

壮大な計画と作業は農民達には雲をつかむようなものでしたので、10人の同志の他は誰一人も手をかす者はなかった。そこで堀内清士は、それまで鍬を持ったことのない妻や、子供、使用人に至るまでこの池造りの労役に使ったのである。この姿を見た農民は、堀内清士の情熱に感動し始めた。特に庄家の奥方が泥まみれになって懸命に働いている姿をみて、農民達はいたく感動をして、だれともなく、日毎に動力する者がふえてきた。やがて、農民はわが事として一家総出で土工に励むようになってきた。このことを知った宇和郷の人々は自分の受益に関係なく、宇和町の多田、中川、笠置山田村の方面から応援に来て工事は予定していた期間より早く、明治13（1880）年の春、3年の歳月で完成した。その面積は2550坪、深さ30尺の規模を有する溜池となった。現在の松蔭池は後年、当時の田之筋村長だった竹内守平が、堀内清士の思想を継いで、昭和28（1953）年から7年の工期をかけて25万トンの貯水量を有する溜池を完成しました。

庄屋・堀内家は、330㎡の規模の茅葺きの建物であった。当主の清士は、明治9（1876）年の春に、文明

開化の技法を取り入れ、瓦葺き替え工事に着工し完成させた。残りの付属建物に着工した時期に、不幸にも新しい建物は全焼した。しかし、この事にめげる事なく酒造業を始め、酒米を相場より高値で買取り米蔵に貯蔵した。明治10（1877）年、西南戦争の影響で米価が高騰し、堀内家は経済的ピンチを切り抜けた。当主は余財を私有する事なく、着工していた松蔭池の工事費用に当てた。自宅の建設は平行して完成させたが、当時の稲作は山の草を刈ってそれをすき込んで肥料としていた。明治13（1880）年の春、村一斉の草刈りの日、村の中央付近から出火し強風にあおられ大火が猛威を振るった。田野中村の大火は村人の方々のおかげをもって、庄家・堀内家は残す事ができた。現在の建物は、その建物が残っている。



堀内家の門

〔長屋門と蔵〕

長屋門中央に大きな扉があり、東に蔵や牛小屋やもみ蔵等の間取り。ここで珍しい倉庫のスペースが設けられている。明治の初め、日本にも西洋の建築の様式が採用されるようになり堀内家も屋根葺き材をいぶし瓦で施工

をしている。

当時の瓦は高価で職人は少ない。総てに予備材があまりない時代に工事をしている。

長屋門の間取りに、補修用瓦置き場まで設けられている。この配置により、いかに瓦が高価であった事が証明される。西面に離れの居住部屋がある。玄関は三和土土間、その奥に炊事場になる。(現在は押入を設けた和室)その部屋の西は、農村民家の田の字の間取りであるが、家周囲が水田であるので、一目で見える部屋の造り。西側に廊下があるが、長屋門には珍しい畳廊下で、その奥に上用便所と土間用便所を設け、その前室に板の間 1.0 坪で洗面所を有している。余裕のある長屋門は、田野中の広い水田の中、誇大な敷地に門構えを有した建物。その大きな敷地に長屋門と主屋の間にお成り門と中庭を配して、屋敷周囲に土塀に漆喰塗りで完成した屋敷の構えである。



長屋門と中庭と主屋

[主屋] 土間玄関に入ると、西側に踏み台があり板の間に繋がる。板の間南に御用の間 4.0 帖がなる。当主が主として使用した書斎か、藩の役人が使用したか、明確でない。これからの課題は明確にする事が必要。板の間の続き和室 10.0 帖、和室 8.0 帖、床の間と神棚がある和室 8.0 帖、和室 8.0 帖外部には式台が創建時あった。表座敷 6.0 帖西面に畳敷き 1.0 間巾の廊下を位置している。板戸の中板は杉の一枚板、欄間は杉板の 1 枚板など素晴らしい木材の種類の高さに感動を感じる。表座敷に隣接は本座敷 10.0 帖が配置。いずれも建具をのけると大広間の形の空間になる。又、西北には客室専用の便所と脱衣室と浴室が設置し、お客に対する構えは、一般の民家には見られない形態だった事が現在でも確認出来る。明治時代に建物を建設したが、江戸時代に、庄家の役を勤めていたので格式の高い間取りの造りが見える。

客間に隣接して家の者が使用する居住部屋が続いて

いる。裏中央部に和室 6.0 帖のつし造りがあり、唯一、この部分が 2 階建てとなっている。この部屋の外に板廊下があり、その中央に便所と洗面所と浴室が備えられている。創建当時は汲みとり式の便所で、臭気や衛生上のため距離を置いた造りとなっている。奥 6.0 帖のこの部屋から東に仏間や仏間の前室、その横に落座と元台所、土間炊事場と元土間が東の広い空間で構成されている。その南に使用人部屋が位置している。木造平屋建てで 100 坪を超えた建物だが、外部の軒がせがいで造りである為、より大きく感じる。創建当時から現在まで、135 年を経過し、維持管理を行いながら居住している。何とか持ちこたえているが、建物の全体の構造に職人を入れて修理を行い、長く保存と歴史を残したい建物です。[中庭とお成り門] 表座敷の戸袋と長屋門和室 6.0 帖を土塀が仕切る。収穫の時、収穫物を天日干しする場所と庄家の勤めを行うための広い場所が必要であった。中庭の西部には巨大な銀杏の木があり、はるか遠くから見える。その下部に座敷から見える庭木が丁寧に剪定されており几帳面な家柄が見てとれる。

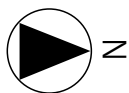
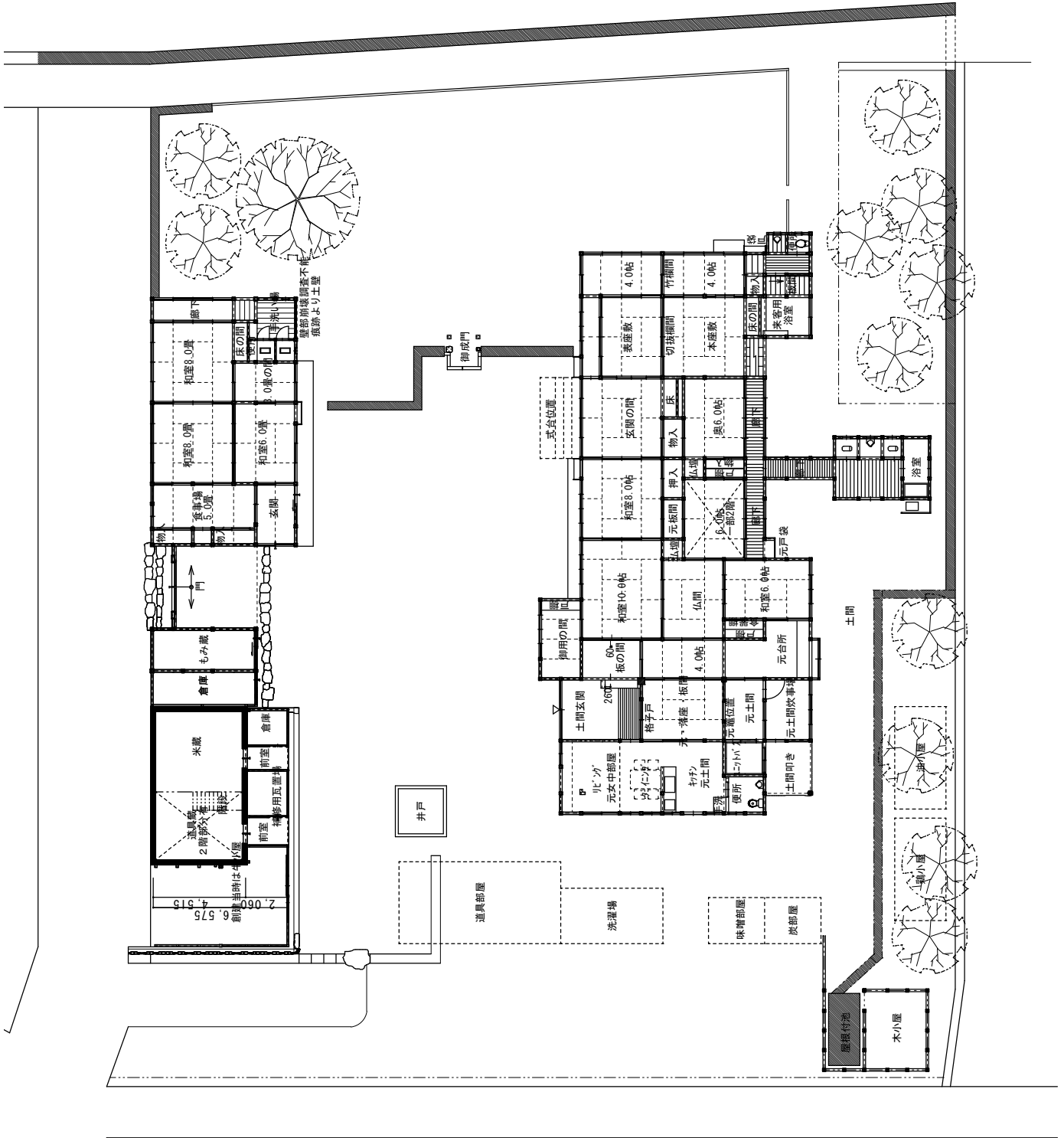
又、庭の借景には敷地の周囲の土塀を低く造り、水田に稔る米、麦などの景色が一目で見える状態に造っている。お成り門はシンプルな造りであったが、風格があった。数年前の台風で倒壊した。そのときに銀杏の木も幹から折れたが残った銀杏は今でも非常に大きい。

明治時代に宇和郷の農家万民のため、又、自然災害のために全力で進んだ大庄屋・堀内家を長く保存したい。



北方向から見える主屋の全景

※ 鎌倉時代、紀州熊野の新宮城主堀内は、西園寺氏の代官として約 780 年前嘉徳 2 年に米良氏とともに下向している。上甲(うわかぶと)の称号を与えられたが、西園寺氏の滅亡後、堀内姓に戻っており、松尾芭蕉の母方の里、という説もある。後に現在地に移り庄屋を務め、明治 3 年には庄屋役御免、稲生から田之筋全域の戸長となり、学校の新設など、人々のために尽力した。



# 港の情景～船の建築～建築の船

スケッチ紀行

2

松山支部 安藤 雅人



三津浜港（港山）



北条港

港の絵を描くのが好き、特に、船が好きです。

前回紹介した今治港内港に続いて、三津から港山を臨んで、三津浜港の絵を描いてみました。真正面に見えるのが、角田造船所です。昔、松本一師さんに案内していただいて、「三津の渡し」に乗って見学に行き、石造のドックを初めて見て、とても驚いたことを覚えています。絵を描いて暫く経ってから、この場所で、映画のロケがありました。柳楽優弥が主演の、ディストラクションベイビーズという暴力をテーマにした作品ですが、孤児の主人公兄弟が、造船所の中で育ったという設定になっています。オープニングに、丁度この絵と同じ風景が写し出され、三津で、弟が悪ガキに苛められるのを主人公が、暴力をふるって助けるシーンから物語が始まり、暴力がどんどんエスカレートして、殺人まで犯してしまうという不条理で、難しい作品で、面白さが理解できません。そんなこととは無関係に、港の風景を楽しみました。

次に、北条港を描いてみました。正面が、こんもりとした山の緑が美しい鹿島、中央の赤い屋根の建物が、鯛めしで有名な太田屋です。エヒメアヤメの自生地である腰折山から眺める鹿島も美しいですが、やはり、このアングルが一番好きです。東京の友達を鹿島に案内しました。鹿の角が生えた船に乗って渡り、美味しい鯛めしを食べて帰るミニツアーです。北条と宇和島、炊き込みタイプと刺身が載った日向飯タイプ、2種類の鯛めしは、全国に自慢できると思います。

釣りもしないのに、何故、船が好きなのかを考えてみました。多分、建築が好きだから船も好きなのだと思います。モダニズム建築の巨匠のル・コルビュジエは、モダニズムの時代を宣言する彼の著書「建築をめざして」の中で、「住宅は住むための機械である」という有名な言葉を残し、具体的に、水上を進むための機械である船

を見習うべきであると説明しています。また、晩年の代表作も船のような屋根を持っています。先日の上京した際、環境工学を教えていただいた木村建一先生が、通用口側からロンシャン礼拝堂を描いたスケッチを観たのをSNSで紹介したら、八幡浜支部の宇都宮勇夫さんが、全く同じ方向から写真を撮っていたので驚きました。翌日に見た弟子の前川國男の東京文化会館も船でした。

最近では、建築のような船、堀部安嗣が設計した瀬戸内クルーズ船のガンツウが人気です。A. アアルトのエンソ・グートツァイト本社ビルと見比べるまでもなく、北条の花火大会の夕間で観たシルエットは、建築そのものでした。屋形船だと感じる人もいると思います。移動手段としてだけでなく、滞在を楽しむためのクルーズ船は、益々、建築化していくでしょう。

移動する建築が幅を利かせる中、しっかりと大地に根付いた作品も見逃せません。最近訪れた、豊島美術館や、伊予市の三秋ホールは、そういう作品だと思えます。是非、鑑賞してみてください。



東京文化会館

## ストリングアートを用いたものづくり体験

四国中央支部長 尾藤 淳一

実施日：平成30年7月28日（土）

活動内容：ストリングアートを用いたものづくり体験

実施場所：四国中央市川之江商店街アーケード内

参加者数：建築士会会員 9名

四国中央支部では、四国中央市の夏のイベントである紙祭りにて、例年建築士会としてブースを出展し無料耐震診断・住宅相談会を行いながら、同時に子供向けの事業を展開しています。

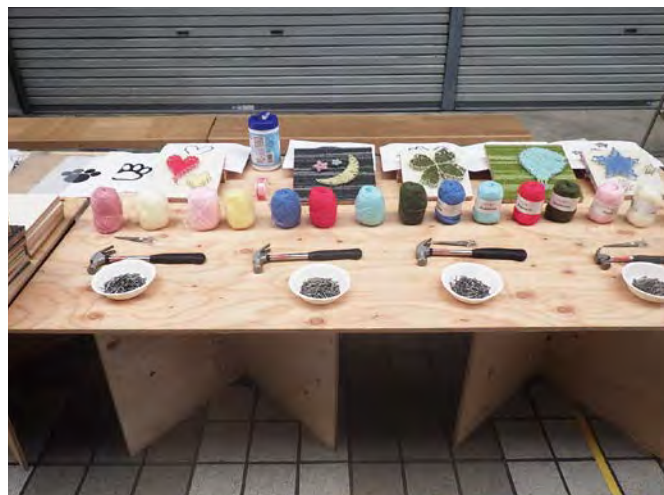
今年は子供向け事業としてストリングアートという工作を活用したものづくり体験を実施致しました。ストリングアートとは、まず板に好きなデザインの下絵を貼り付け、そのデザインに沿ってハンマーで釘を打ち付けていきます。その後、打ち付けた釘同士を毛糸で結んでいく作業を行います。すると浮き上がった感じの立体的なアート作品が出来上がるというものです。

準備作業として、下地の板材には市内の建築現場で出た廃材を活用して趣のあるものを準備しました。また用意するデザイン画も、子供が作成しやすい単純な外形の物を数種類用意しました。更に、当日に子供たちが一目でイメージが湧くように、いくつか見本も作成展示しておきました。以上の準備を終えて当日に臨みました。

当日は、午前中で用意した材料が売り切れる好評ぶり、急ぎょ午後からは材料の追加を頼んだほどでした。背景には、やったことのない体験ができること、紙祭りに子供参加型・体験型ブースが少ない事などがあると思われれます。一緒に作業を行いながら参加者の親御さんともお話しましたが、今の小学校では釘を打つ体験もなかなか授業ではないらしく、非常に良かったとおっしゃっていました。

建築士会が運営するブースとして建築に結びつく事業をと考えて準備しましたが、今回のストリングアートでは釘を打つ、糸を自由に巻付ける、などの工程を経て一つの作品を作る楽しさを多くの子供たちに体験していただけたのではないかと感じました。

最後に、当日は週末の日中の忙しい時間帯にも拘わらず、汗だくになりながら子供たちの相手をしてくれた会員の皆さん、仕事終わりに時間を割いて準備してくれた会員の皆さん全てに感謝申し上げます。



事業開始前のブース風景



事業実施中の風景（常に参加者でいっぱいでした）



参加者の親子（親子で楽しんでもらっています）

新居浜支部 和田 卓巳

## 建築相談など

実施日：平成30年7月1日（日）  
 活動内容：建築相談など  
 実施場所：イオンモール新居浜  
 参加者数：9名

7月1日（日曜日）に、毎年お世話になっておりますイオンモール新居浜（2Fイオンホール）で9：00～17：00まで開催しました。毎年、土・日曜日の2日間開催でしたが、今年は、中身を充実させた日曜日だけの1日開催で行いました。そして、偶然にも制定されている「7月1日の建築士の日」という日程になりました。

内容

- ：建築士による建築無料相談
- ：建築士による実施工パネル展示
- ：園児によるお絵かき展示
- ：新居浜左官業組合さんによる左官体験（塗り壁体験、泥団子作り）
- ：（有）久門工業所さんによる板金折り鶴・折り亀実演
- ：整理アドバイザー（菅 久実さん）講座（午前、午後の2回）
- ：箸作り、コースター作り体験
- ：アンケート

今回、例年の内容に加え、会員でもある菅さんによる、整理収納のきほん・生前整理セミナー、桧材を鉋で削って作る箸作りなどにもたくさんの来場者が集まり楽しいイベントとなりました。



塗り壁体験



箸作り体験

## パネル展示・保育所園児塗り絵展示・無料建築相談

西条支部長 元根 衆三郎

実施日：平成30年7月1日（日）  
 活動内容：パネル展示・保育所園児塗り絵展示・  
 無料建築相談  
 実施場所：イオン新居浜ショッピングセンター  
 スタッフ：11名

新居浜支部・西条支部合同で、例年通り展示形式で事業を開催しました。5月より準備をはじめ新居浜、西条の保育所に建築にかかわる塗り絵をお願いして、園児に描いてもらいました。7月1日の朝より会場設置を開始し、9時より開場しました。17時まで展示を行い63名の一般の方が来場されました。

片付けを行い、その後西条で新居浜支部・西条支部合同で懇親会をおこないました。





## 高須海岸漂着ごみ清掃奉仕活動

西条支部 越智 忠美

日 時：平成30年7月1日（日）  
 清掃場所：西条市 高須海岸  
 対 象 者：地域住民、関係団体、建築士会支部会員  
 参加者数：約500人

今年も『受け継ごう きれいで豊かな瀬戸の海』をキャッチフレーズに美しい瀬戸内海を取り戻すため、7月1日に海岸の清掃活動を行いました。

この海岸清掃活動「リフレッシュ瀬戸内」につきましては、早朝から建築士会西条支部、建設業協会、地元住民、西条市海事振興会の皆様を含め約500人のご参加をいただきまして、海岸の空き缶やゴミ拾い等の清掃作業に汗を流して、漂着ごみ等約4トンのゴミを回収することができました。

一見地味な活動ですが、みんなでおしゃべりしながらのゴミ拾いも楽しいですよ。

『瀬戸内の海岸をきれいにしましょう。』

少しは建築士会の知名度はアップしたかな？

地域住民の皆さまに喜んでいただければ幸いです。

今年も沢山の会員の皆さんに参加していただきましたが、来年も引き続き高須海岸の清掃活動を行いますのでご協力をお願いします。



## 丹原七夕まつり in 耐震診断・耐震改修アピール活動

西条支部 越智 忠美

日 時：平成30年8月6日（月）  
 場 所：丹原町伊予銀行駐車場  
 対 象 者：イベント出場者及び観客（数千人）  
 参加者数：18人

丹原七夕夏まつりをご存知ですか。  
 丹原七夕夏まつりの始まりは、昭和の終わりごろ。  
 もともと丹原商店街では、大正時代から七夕のころに、各商店が軒先に笹飾りを立て、通行人を楽しませていたようです。  
 私も小学校のころから友達とよく行っていました。



商店街を何往復も歩いたりして楽しんでいましたね。  
 大人も子どもも楽しめる夏まつりのイベントです。  
 まつりが最盛期を迎えたのは平成10年ごろ。  
 大がかりな笹飾りやアイデアがいっぱいの仕掛けで訪れる方を楽しませてくれました。

私たちが建築の設計をするときの感じに似ていると思いませんか。

今年で38回目を迎えるこのまつりが、商店街の衰退や担い手の減少と高齢化により、今回の開催で幕を閉じます。「もっと続けてもらいたい…正直寂しい。」

西条市丹原町商店街での七夕まつりは終わるけど、違う形でまた丹原を盛り上げて、子ども達の記憶に残る夏の楽しいイベントができるといいですね。

今年が最後の丹原七夕まつりで西条支部は終了時間ギリギリまでかき氷や射的また西条市建築審査課と共同で木造住宅の耐震診断・改修のチラシとティッシュ配りに精いっぱい頑張りました。

暑い中、『建築士の日』のイベントを実施することにより多くの市民の方に防災に関心を持っていただけたと思います。

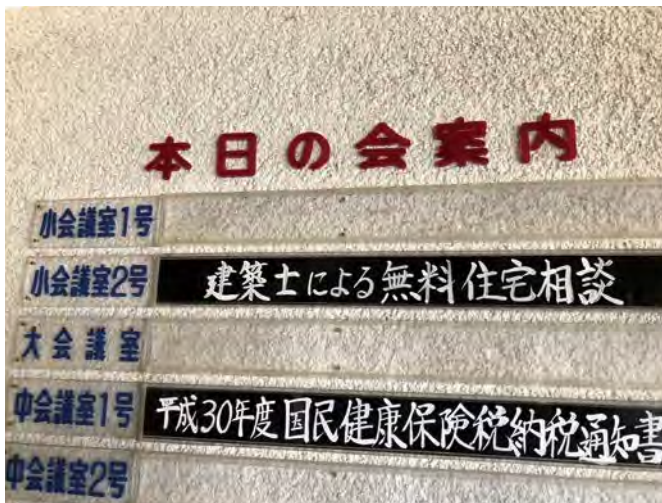
また、どこかのまつり会場でお会いしましょう。  
 最後に、これからの丹原の発展を心から願っております。

## 無料住宅相談

今治支部副支部長 曾我部 準

実施日：平成30年7月2日（月）  
 活動内容：無料住宅相談  
 実施場所：今治市民会館小会議室2号  
 参加者：8名

今治支部では「建築士の日」の行事として例年は「おかのまちをつくろう！」を夏休みの7月最終土曜日に実施していましたが、今年は冬休みの行事として生まれ変わることになり、それに代わる行事として「無料住宅相談会」を7月2日（月）の午後、今治市民会館小会議室2号にて開催しました。



募集はいまばり広報に掲載しました。相談員として参加してくれたのは支部の有志8名。それを13:00～15:00と15:00～17:00の前後半に分け、それぞれ2班態勢で市民からの相談を受け付けました。相談者が市役所を訪れるついでにでも相談に来てもらいたいという思いから開催日を月曜に設定しましたが、そうになると相談員は業務の時間を割いての参加になるため、前後半2班態勢として少しでも相談員の負担が軽くなるようにしました。配布物として「誰でも出来るわが家の耐震診断」のリーフレット、愛媛県の耐震診断、耐震改修補助のパンフレットを準備しました。

時間になり相談開始とともに2人が来られて対応させてもらいましたが、ヒアリングをしているうちにやはりというか住宅の耐震性について不安をかかえられていることが見て取れ、それならまず耐震診断を受けるところから始めてみてはどうかとアドバイス、概要を説明したのち、市民会館に隣接する市役所の建築指導課に案内し実際の受付窓口をみてもらい、必要書類等を用意して改めて申し込みをされるようにアドバイスしました。こ

うあたりは即座に対応することが出来てよかったと思うとともに、今治市の耐震化率アップにつながればこの活動も意義のあるものだと思います。一方でこの木造住宅耐震化の補助について、もう少しうまくPRが出来ないものかとも思いました。また補助金を使った耐震化の運用の流れをうまく整理して広められないかとも思いました。



他にも木造住宅の瑕疵について相談に来られた方もいました。しかしこれについては相談員として良い解決方法を提示することは出来ませんでした。情では分かるが理は通らない内容です。こういう相談があるということも想定はしていましたが相談会という窓口だけでの限界を感じました。経験として現場を知る諸先輩方のお知恵をお借りしたいところです。結果、今回の相談者は3名でした。



最後に、大変お忙しい中、業務時間を割いて相談員として参加をしてくれた8名の支部会員の方には厚くお礼申し上げます。

## 建築巡礼 in まつやまX

松山支部長 武内 邦彦

開催日 平成30年7月14日(土)  
 場所：渡部家住宅、石手寺、道後温泉本館、武道館  
 参加者 一般市民 30名+スタッフ 26名

松山支部では、今年も恒例の「建築巡礼 in まつやま」を開催しました。今回で10回目です。回数も節目ですので、来年度からの内容については再検討をしたいと考えております。この行事の主目的が「建築士の知名度を上げる」さらに「建築士会を認知してもらう」です。そのためにもっと合理的で効果的なことを模索したいと思います。若い参加者が増えるとさらに良いです。それでは、大塚美由紀さんに実施報告していただきます。



【道後温泉本館】



【武道館】



【渡部家住宅・事前勉強会】



【石手寺】



【参加者、スタッフ皆で昼食】

松山支部 大塚 美由紀

松山支部公益事業「建築士の日」の行事、建築巡礼 in まつやまXにスタッフとして参加しました。

10回目となる今回は、渡部家住宅、石手寺、道後温泉本館、武道館を巡るコースでした。

例年通り、事前に青年・女性委員会のメンバーを中心に事前勉強会を行い、当日は各所2～4名が建物の説明にあたりました。

午前中は渡部家から石手寺へ。石手寺では二王門から三重塔や本堂等4ヶ所での案内でしたので、参加者には日影に入ってもらったりしながらの進行となりました。参加者の皆さんは、熱心に解説を聞きながら質問をしたり、スタッフと話が弾んだりしていました。

にぎたつ会館での昼食でも、建築やその他の話に花が咲きました。

午後からは道後温泉本館。道後オンセナート開催中の土曜で観光客も多い中、2班に分かれ外観と又新殿の見学を行った後はバスで武道館へ。武道館ではスケールの大きな構造や工事の説明に驚いたり、感心したりしながら最後に内部も見学しました。

参加者の方は年配の方が多く、お疲れになったと思いますが、満足していただける内容だったのではないかと思います。

## 安心安全なまちづくり、建築士の仕事のアピール活動

伊予支部長 濱本 浩

実施日：平成30年6月2日（土）中山小学校  
平成30年9月1日（土）下灘駅

実施場所：中山小学校・下灘駅

参加者数：10名

伊予支部は「建築士の日」の行事として、昨年に続き近い将来おこると考えられる「東南海・南海地震」に対する啓蒙と災害に強いまちづくりを推進するため、【木造耐震診断および木造耐震改修工事】をアピールした「うちわ」に、今年は建築士の仕事もアピールしたものを追加して全面的にリニューアルし、伊予市の三つの夏祭り「6月中山ホテルまつり」「7月伊予彩まつり」「9月下灘駅プラットホームコンサート」の会場で市民の皆さんに配布する予定でしたが、伊予彩祭りが逆走台風で中止になり他の2会場にて配布させていただきました。

多くの市民の皆さんが各会場に集まって来られ、用意した「うちわ」はすぐに配りきりました。この「うちわ」に印刷した内容を市民の皆さんが読んで少しでも建築士と地震に関心を持っていただくことができればいいなと思います。



旧デザインのうちわ



新デザインのうちわ



（下絵柄は連合会のものを流用させて頂きました）

## 建築士の日の行事

八幡浜支部 安藤 嘉晃

開催日：8/25（土） 開催場所：新町商店街（八幡浜市）  
参加人数：4名

7月の豪雨災害により、八幡浜市内におきましても、建物の倒壊、床下・床上浸水等の被害があり、このような中で、行事を開催するべきかという議論もありましたが、このような時にこそ、建築士の地位向上につながるという結論に至り、開催する運びとなりました。

今年の出し物は、A4用紙で橋を造り、そこに重しを載せ、どれだけの重さに耐えるかを競うという、いかにも建築士という出し物となりました。子供たちも普段考えたりしないことなので、最初はポッカンとしていましたが、手本を見せてあげると、競うように各々が思う橋を造って楽しんでくれました。また会員も建築士の血が騒いだのか、子供たちに負けまいと、童心に帰って楽しむことができ、災害復旧で疲労困憊でありましたが、いい気分転換が図れたと思います。慰労会では、はしゃぎ過ぎたのかグツタリで、日曜日にも仕事をしないといけないと嘆き合っていました。皆で慰め合うことで、仕事モードに切り替えることができたと思います。

この原稿を書いている現在でも、災害復旧はまだまだ

これからのところです。一日でも早く復旧が進むよう建築士会八幡浜支部の一員として、微力ではありますが、復旧支援の一助となるよう努めて参りたいと思います。



## 「夢のまち宇和島 絵画展」行事報告

宇和島支部青年部 二宮 正行

実施日：平成30年8月11日（土）  
 活動内容：ふるさとの未来を描く絵画展の開催  
 実施場所：宇和島ささいやロード（商店街）  
 参加者数：約50名

宇和島支部では、建築士の日の事業として、「夢のまち・素敵なまち絵画展」を開催しており、今回で23回目を迎えました。本年はその絵画展に加えて、夏休みの子供たちが建築にふれあえる「建築体験コーナー」を設けるべく準備を進めてきました。

しかし、7月の豪雨災害の影響で、当日協力依頼していた大工をはじめとする各職人が集まることができなくなりました。各学校や出展者の皆さんには、災害復旧工事を優先することなどをご理解いただき、「建築体験」を中止し「絵画展」のみ開催することとしました。

2018「建築士の日」事業  
**夢のまち宇和島 建築体験 絵画展**  
 みなさんが暮らしている素敵なまち「うわじま」  
 みんなの理想とする「つわじま」  
 住んでみたい「家」を絵にしてみませんか？  
 みなさんの住まいや学校など、このまちを遊んでいる  
 建築の楽しさを実感して下さい！！

【テーマ】 素敵なまち・夢のあるまち・住んでみたい家  
 【対象】 宇和島市内の小学校4・5・6年生  
 【開催期】 2018年 7月 20日（金）  
 【表 彰】 ドリーム大賞：各学年1点  
 いそいそ賞：各学年1点  
 豪華スポンサー賞：10点  
 建築士会宇和島支部長賞  
 各表彰者全員に正賞品あり

主 催：愛媛県建築士会 宇和島支部  
 後 援：宇和島市  
 宇和島市教育委員会  
 宇和島市PTA連合会

建築体験・絵画展示  
 日 時：平成 30年 8月 11日（土）  
 13:00～18:00  
 場 所：宇和島ささいやロード（商店街）  
 （伊予銀行宇和島支店前）  
 お問い合わせ：愛媛県建築士会宇和島支部 青年部  
 ≪連絡先 0895-22-3436（株）二宮工務店 内≫  
 ※雨天時商店街の屋根下大会と同時開催です！

〈建築体験・絵画展募集ポスター〉



〈会場準備状況〉

今年の応募総数は約200点と、例年より少なめでした。例年の各賞に加えて、会員企業に協力を依頼して新たに設けた「豪華スポンサー賞」などが好評だったこともあり、来年以降は多くの小学校に参加してもらえることを期待しています。



〈絵画展状況〉



〈絵画展審査状況〉

将来の宇和島を担う子供たちに、「建築の楽しさ」「まちづくりの大切さ」を知ってもらおうと共に、今後「防災意識の向上」も図っていきたいと考えています。今回の絵画展の開催にあたり、小学校の先生方、商店街の皆様、地元企業の皆様に多大なるご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

# 平成30年度中四国ブロック まちづくり委員長会議

委員会報告

文化財・まちづくり委員会委員 眞田井 良子

2018年7月21日(土) 13:00~17:00

会場：こめっせ宇多津

参加人数：花岡直樹、眞田井良子 2名

会場となった国の登録有形文化財である「こめっせ宇多津」は、米蔵を改修してつくられた多目的ホールです。



まずはじめに、幹事県である香川県のまちづくりに関する事例紹介が2件ありました。

一つ目は「城下町リノベル。」と言って、丸亀市の通町商店街の空き店舗活用の事例でした。「シャッターを開ける会」という地域活動団体と出会い、2016年から3年がかりで空き店舗を改修&活用されています。1年目に事業計画案を立案し、「珪藻土塗り体験」「木工DIY建具作り」「木片張り」などの市民参加型ワークショップが行われています。2017年12月に建築士の強みを活かして改修工事を完了させ、うどん打ち体験を実施し、延べ500人以上の参加がありました。2018年には、活用を意識して「あんどんづくりワークショップ」「住みたい家デザインワークショップ」などを開催されています。



二つ目の事例発表は「三豊市仁尾町における地域活

動」で、6千人を切る港町と商業の街における、「一般社団法人誇」を設立しての様々な取り組みが紹介されました。主な活動は、「離島への食品販売(ワゴン車)」「廃棄材を活用した料理作り」「現代の社会問題への解決と地域資源の活用」です。特に三番目の部分では、まちが繁栄したシンボル「松賀屋」をクラウドファンディング等により簡易宿泊施設へ改修しています。また、オーナーからの依頼で「平石堂」では、キッチンとスペースがある場所を改修して、地域の方々がいろいろなことを実践する場(夜間のバー、いのしし解体、ヨガ教室、ケニア料理)として活用されています。利用希望者はオーナーと面談を行い、オーナーが許可した場合に利用できる仕組みです。このように、公的資金に頼らず収益事業を行いながら、地域の方々が集う盆踊りの復活を試みられています。また三豊市は、日本のウユニ塩湖と呼ばれる絶景が見られる貴重な場所であると紹介されました。



その後、各県からの報告で、各県のまちづくり活動への取り組み状況や、今回の西日本豪雨での災害復興状況やその他の防災への取り組みなどが報告されました。各県によって大小はありますが、ヘリテージマネージャーが確実に育成されてきているようです。そして、特にまちづくり委員会の部会活動が熱心に行われている徳島県から日本全体での部会活動の報告がありました。熊本地震の本震の起き方や、応急危険度判定士の安全を確保するために、大阪北部地震への建築士の派遣は、少なくとも1週間は待つ必要があるのではないかとの問題提起がありました。

今年度はじめて、文化財・まちづくり委員会に参加して、このような会議に出席させていただき、どうもありがとうございました。とくに近県の事例発表や、各県の取り組み状況を知ることができ、今後の活動に参考になることが多かったですし、熱心に活動されている方とお会いでき、その「熱」を少し分けていただけました。

# とびだせ建築士in東予高校 「橋を作ろう」

青年委員会委員 国宇 順一郎

開催日：平成30年7月19日（木）  
スタッフ：6名参加

とびだせ建築士とは…県内の高校生（建築科）の生徒を対象に、我々建築士と直接交流する機会をつくり共に学ぶことで、建築の楽しさをより知ってもらうことを目的とした活動。

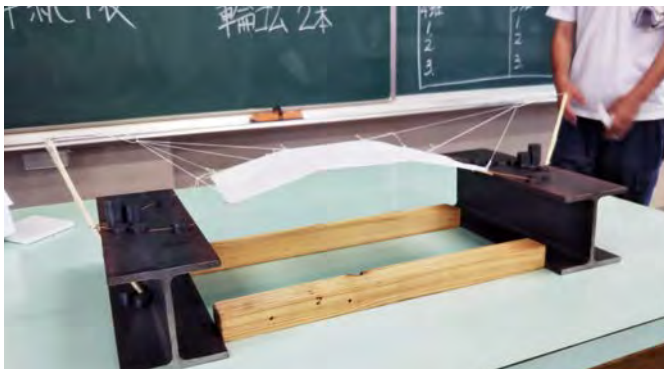
東予地区では、東予高校建設工学科の学生・先生に協力をいただいて活動をしています。今回で3回目となる『橋をつくろう！』は1年生を対象に7月19日に午前の2コマで開催となりました。

毎年同じ課題ですが、1年生にとっては、はじめての体験です。色々な橋をつくってるので、面白くてこちらも毎回楽しみのなっています。

使う材料も今までと変わらず、1組分（マグネット50個、竹ひご180mm×4本、割り箸1本、半紙×1枚、糸1m×2本、クリップ4個、セロテープ300mm6本、A3サイズの紙かご、輪ゴム×2本）土台H鋼100×100×L=300、錘（おもり）のタイル。

今まで参加していなかった我々建築士も参加することになりました。生徒達よりすぐに壊れる橋になったらどうしようと思いながら、みんなの頭で考えました。

形はいい感じで出来ましたが、おもりのタイルを一番多く乗せることはできるでしょうか。



我々建築士の考えた橋

最初に、生徒へなぜこんな橋をつくる課題を出すのかという理由を説明しました。

- 1、材料を決めることで、限られた材料でどこまで頑丈な橋ができるか。
- 2、建築では、建築予算が決まっていることが多い為、その予算（コスト）の中でどれだけ良い物ができるか。
- 3、どこまでの工夫で頑丈な橋ができるか。

建築では様々な工法が考えられるため、同じ材料でも工法によって強度が変わる事を説明しました。

4、時間内で橋を完成させれるか。

建築では、着工から完成まで工程を組んで工事が進められていることが多いので、それを考えて期間内に工事を完成させていかなければならない。

橋をつくるにしても、「なるほどね！」と感じてもらえたら、そして建築にもっと興味をもってもらえたらうれしいです。



最初はどうか考えればいいのか分からない雰囲気でしたが、それなりに各班で形をつくり私たちメンバーは見守っていました。その中には、なかなか面白いアイデアもあります。そして、制作の時間はあっという間に過ぎました。



各班の橋におもりを乗せて計測実験です。

毎回ですが、ここが盛り上がる場所です！

橋にのせられたタイルの枚数が少ない班、思ったより多くのせられた班。生徒達みんなで実験ができました。

発想力にもなると思うので、これからも続けていけたらと思っています。

最後に…我々建築士の考えた橋もタイルを何枚かのせられましたよ。

面子丸潰れにはなりませんでした。よかった～！

# とびだせ建築士（中予） 「平成30年7月豪雨災害ボランティア」

青年委員会 副委員長 長岡 康広

開催日時：平成30年8月6日（月）7：00～17：20  
場 所：宇和島市吉田町

参 加 者：松山聖稜高校生徒41名、教員4名  
建築士会6名（長岡康広、石田達也、河窪茂樹、大内雄志、辻川晃太郎、大塚美由紀）

例年は、古建築や近代建築について、青年会員の有志が集まり花岡直樹先生からレクチャーを受け、その後の自主勉強も追加して、松山工業高校、松山聖稜高校の生徒を対象となる建築物について、建築士目線での解説を行っておりました。この勉強会は、われわれ建築士と建築科の生徒が直に交流し、建築という仕事に希望や興味を持ってもらい、将来建築士会員として、共に活動してもらうことを期待して実施しておりました。

5月末に実施した松山支部青年女性委員会では、今年も例年通りの内容で行う予定で打合せを進めておりましたが、7月の豪雨災害を受け、県青年委員の河窪さんから「今年のとびだせ建築士（中予）で災害ボランティアに参加できないですか」と相談があり、その当時（7月中旬）はSNS上で、松山市三津浜地区における被害状況やボランティアが全く足りていない状況が分かっていたので、「三津浜だったら実施できるのではないかと、西予市や吉田町は難しいだろう。」と回答したのですが、その後、河窪さんが県・市・町や地区の窓口などに相談し、愛媛県福祉協議会が運行しているボランティアバスを利用し、吉田町へ行くことになりました。

開催日が決定したのが、1週間前と準備期間が少なく、予定した人数の参加者がいるかどうか不安でしたが、松山聖稜高校の尾崎先生から「行くのなら中途半端ではだめだから、本気でやろう。45名は参加するから」と言っただき、先生が言ったとおり、3年生22名、2年生7名、1年生12名、教員4名の合計45名が参加してくれたことには驚きました。しかも、夏休み中にもかかわらず、全員が自らの意思で参加してくれているのが分かり、非常に感動しました。

朝7時30分にバスが出発するというので、7時に城山公園堀之内地区北口に集合しましたが、私たち以外にも150名以上の方が集まっており、平日なのに自分を犠牲にしてボランティアに参加する方がこんなに多いことに感動しました。全員が集合し、簡単な開会の行事を行いました。そこでは、ボランティアについての注意事項の説明と「全員が無事に帰ってくることを目標に頑張りましょう」と伝え、バスに乗り込みました。

バスの車内では、大西局長に用意していただいた被災建物の調査方法や復旧方法に関する資料を配布し、辻川さんに解説してもらいました。吉田町に入るまでは、生徒たちは課外活動か遠足の延長の様な雰囲気でしたが、

国道沿いの土砂災害や家屋倒壊を目の当たりにして、自分が今日ここへ何をしに来たのか、何をしなければいけないかをようやく理解した様子でした。

吉田町の臨時ボランティアセンターとなっている喜佐方共同選果場に着くと、次々に各地から大型バスが到着していました。ここでは、各地からの要望を集約し、ボランティアの割り振りを行っていました。私たちも現地ボランティアスタッフの指示により、決められた人数で3班に分かれ、リーダーを決め、要望書に記載のある必要な道具を積み込み、決められた車両（マイクロバス）に乗り込み、各ボランティア場所（サテライト）に移動しました。

私は、3班のリーダーとして生徒、先生18名と共にボランティア活動を実施しました。こんなに大所帯で活動するということが少ないようで、サテライトのスタッフも混乱していましたが、最終的に与村井公民館近くの水路脇で炎天下の下で土掻き作業、土嚢袋詰め作業、土嚢袋運搬作業を実施しました。作業場所に行く途中には、山の大半が崩れ、流れてきた土砂によって、倒壊している建物もあり、今回の災害の規模の大きさを改めて認識させられました。サテライトスタッフの指導では、「災害発生から1カ月経過し、現地の方は疲労困憊の状態です。現地の方と積極的に話をするにより、手を休ませ、身体を休ませてあげてください。皆さんは頼まれてきたのではなく、勝手に来たのだから、決して現地の方の負担になるようなことがないように注意してください。ケガや熱中症で倒れたりしたら、現地の方は心配し、負担となるので、絶対にそういうことがないようにしてください。その為には、次の時間を必ず守ってください。15分活動したら、15分休んでください。また、自分が持っている体力の最低ラインの力で作業してください。一人が頑張りすぎると周りの人が無理をしまい、倒れてしまうので。」ということでした。最初は元気よくおしゃべりしながら、多少じゃれながら作業をしていた生徒たちも、1時間経過したころには、口数が少なくなり、「まだ15分経たんのかあ」「あと何分で休憩？」と炎天下の猛暑に堪えていた様子でした。炎天下での作業が苦手でない私自身もこの時の15分の作業は今までに経験のない過酷な時間でした。



（3班の様子）



1班のリーダーは、松山支部青年女性副委員長の大内さんになってもらい、生徒、先生10名と活動してもらいました。

作業場所は吉田町白浦の古民家（倉庫として利用）で作業内容は、2階部分まで浸水した倉庫の1階内部の、みかん箱（キャリアケース）、床下の瓦、農薬類の備品の搬出作業でした。家屋の状況は、小屋裏が露わになり、建物を支える梁が折れ、積上げたみかん箱がそれを支えて倒壊を免れている状況でした。その為、非営利活動法人ばるびーの森本理事の指示を仰ぎながら危険な箇所には触れずに作業を行いました。家主の方とお話しする機会があり聞いてみると、「倉庫は作業開始から4日が経っているが、なかなか思うように作業が進まない。自宅も浸水しており、どちらも人手が足りていない。」ということでした。また、サテライトスタッフへのお礼の挨拶では、1年生の白川君が「ここまで被害が深刻だと思わず、びっくりしました。夏休みはまだあるので、次回は個人的にボランティアに参加できればと思います。」と感想を述べてくれました。1班では、1年生の生徒1人に熱中症の疑いがあり、その子は午前中で作業を中断し、私の車で臨時ボランティアセンターまで運び、午後は休憩場所で安静にしておりましたが、帰るときには回復しており、元気に帰路につくことができたので良かったです。（筆：大内雄志）



↑（1班の様子）→

2班のリーダーは、松山支部青年女性委員の辻川さんになってもらい、県青年委員の石田さん、生徒12名と活動してもらいました。

作業はA様邸に伺いました。A様邸は、家の裏にある山が大雨によって崩れ、床上浸水を起こしたお家でした。当日の作業は、床下の土砂の搬出作業、外した床板の清掃作業、土砂搬出の際に汚れた宅内の清掃作業を行いました。

家主さんと話をする機会があり、「建築を勉強している学生で、若い子がこんなにたくさんも手伝いに来てもらえるのはとても助かります。」というお言葉をいただきました。また、年配の方の中には、自宅の復旧を行う

のに、申し訳無いという気持ちからボランティアの手を借りず、自分たちで復旧を行っている方もいるというお話も伺いました。

昼休みを利用し、近隣の被災状況の確認を行いました。間知ブロックの裏込めの土が抜け、傾いているところや、小川に隣接した道路が増水のため、道路が落ちているところが見つかりました。そういった被害状況をみて、なぜこうなったのか、どうしたら未然に防げたのか、聖陵高校の生徒に質問を受けました。

今回のボランティアは災害から、1ヶ月が経っていましたが、未だ復旧の手が及んでいないところがあると感じました。重機の入らない狭い場所や、高齢者のみで住まわれている地区も多く、まだまだボランティアの手が必要だと思いました。また、別の機会にでもボランティアに参加したいと思います。（筆：辻川晃太郎）



↑（2班の様子）→

全員無事に松山に到着し、閉会式にて生徒を代表して3年生2人、2年生1人が感想を述べてくれましたが、「自然の恐ろしさ、強さを知りました。参加してよかったです。松山に居たら絶対に分からない、感じる事ができないことを経験することができました。将来、建築士になったら、今日見たことを活かして、どんな災害にも耐えられる建物を造りたいと思います。」といった、とても前向きな感想が聞けました。また、引率の尾崎先生からは「今回、愛媛県建築士会の方が提案し動いてくれなかったら、私を含めみんなもボランティア活動に参加することはなかったと思う。建築士会の方が動いてくれたおかげで、今日の経験、体験をすることができた。ありがとうございました。」とお礼の言葉をいただきました。私自身も本当にいい経験となりました。（TV取材を受ける保育園読み聞かせ班）



（TV取材を受ける保育園読み聞かせ班）

# 青年委員会主催 二級建築士 設計製図試験受験者のための見学会

委員会報告

4

松山支部 近藤 岳志

開催日時：平成30年8月4日(土)9:00~12:00

参加者：6名 講師：近藤岳志

8月4日(土)に平成30年二級建築士試験設計製図試験受験者対象の見学会を開催しました。

この見学会は、二級建築士を目指す受験生を対象に、課題のテーマである「地域住民が交流できるカフェを併設する二世帯住宅（鉄筋コンクリート造、ラーメン構造、3階建て）」に関わる建築物を見学し、学習の理解をより深めて頂くことを目的としています。また、建築士試験に合格した建築士会メンバーが解説、サポートすることにより、建築士会入会のきっかけになればと開催いたしました。

最初に、「カフェ」というキーワードから、レドンドコーヒーさんにご協力頂き、開店前に店内を拝見させて頂きました。



(集客を目的としたカフェのファサードについて解説)

カウンターや、テーブル、イス等の寸法を確認し、実際の空間を確認しました。また、お店の入り口に吹抜部分があり、2階から吹抜を介して、道路側を見る事が出来る等、本試験に出そうなポイントを解説しました。



(客席に開いている厨房について解説)

その後、建設中の鉄筋コンクリート造（以下、RC造）の現場にお邪魔し、施工中の空間を、施工段階別に見せて頂きました。

実際のRC造の柱や梁、小梁の構成を確認したり、イ



(2階から吹き抜けを介して道路側を見る事ができる)



(支店長によるコンクリートの躯体部分の解説)

ンナーバルコニーの構成、部分詳細図で出る可能性のあるサッシの抱き（だき）、断熱材、天井下地等、座学では理解しにくい部分を見て頂くことが出来ました。



(吹き付けの断熱材や天井の下地等の現場を確認)

見学後にご記入頂いたアンケートでも今回の施設見学会について概ね良い評価を頂きましたので、来年度も継続して開催出来ればと思っています。

最後に、見学にご協力頂きましたレドンドコーヒーさま、(株)山本建設松山支店長さま、この施設見学会にご参加頂いた受験生のみなさま、見学会にご協力頂きましたみなさま、ありがとうございました。受験生のみなさまの合格と建築士会入会を心より願っております。

# 青年委員会主催 一級建築士設計製図試験受験者対象の参考事例見学会

松山支部 近藤 岳志

開催日時：平成30年8月31日(金) 13:00～16:00

参加者：14名 講師：近藤 岳志

8月31日(金)に平成30年一級建築士設計製図試験受験者対象の参考事例見学会を開催しました。

この見学会は、一級建築士を目指す受験生を対象に、課題のテーマである「健康づくりのためのスポーツ施設（3階建て）」に関わる建築物を見学し、学習の理解をより深めて頂くことを目的としています。また、建築士試験に合格した建築士会メンバーが解説、サポートすることにより、建築士会入会のきっかけになればと開催いたしました。

最初に、課題から「スポーツ施設」、「健康増進のためのエクササイズ等を行う温水プールのある建築物の計画」というキーワードから、FITTAエミフルMASAKI店さんにご協力頂き、休業日に店内を拝見させて頂きました。



(メインの道路側に店舗のアプローチがあります)

今回、ロビーから、メインである温水プールに至るまでの動線計画について実際に通路を通りながら確認したり、聞き慣れない部屋名を実際に見学することで、課題をよりイメージしやすくなったかと思えます。またスポーツジムの状況、トレーニングが出来る部屋、普段入ることが



(受付は、ロビーの来客が確認できる位置にあります)



(温水プールと西側からの採光)

出来ない機械室等、拝見することが出来ました。

その後、「パッシブデザインを積極的に取り入れた建築物の計画」という課題のキーワードから、伊予市庁舎を拝見しました。伊予市役所の隅田さんはじめ、伊予市職員の方に非常に丁寧に解説して頂きました。



(伊予市庁舎の全景。棚田をイメージした屋上緑化が見えます)

天井面にガラスを用いた自然採光や、棚田をイメージした屋上緑化等のパッシブデザインに加えて、太陽光発電、災害時の備蓄倉庫、プレキャストコンクリートの使い方、免震構造等、最新の建築技術についても教えて頂くことが出来ました。

見学後にご記入頂いたアンケートでは、合格したら建築士会に入会したいというご意見を多数頂きましたので、来年度も継続して開催出来ればと思っています。

最後に、見学にご協力頂きました FITTA エミフル MASAKI店さん、伊予市役所隅田さま、市職員のみなさま、この施設見学会にご参加頂いた受験生のみなさま、見学会にご協力頂きましたみなさま、ありがとうございました。受験生のみなさまの合格と建築士会入会を心より願っております。

# マリレジャーと BBQ を 楽しもう！！

松山支部 辻川 晃太郎

開催日：平成30年9月15日(土)  
参加者：大人17名、子供4名  
場 所：松山市興居島

松山市興居島にて、マリレジャーとBBQを行いました。

今回、私はじゃんけん大会で優勝し、かつ、マリレジャーでもっとも活躍したため、このような光栄な役目をいただきました！

今回、私がマリレジャーで挑戦したのは、フライボードというものです。



〔フライボード体験中〕

フライボードとは、両足についたジェットで水中から飛び上がり、空中でホバリングをして空を自在に飛ぶことを楽しみます。バランス感覚が非常に重要なスポーツで、少しでもバランスを崩すと、空中で停止はできず頭から海に墜落します。プールで飛び込みに失敗した時のように、体は痛いですし、口にも鼻にも海水がたくさん入ってきます。自ら進んで挑戦しましたが、途中で辞めたくなるほど大変でした。

写真は、私の挑戦している時の写真ですが、気持ちの中では、3mくらい空中に飛び上がっているつもりです笑。上手な人は写真の三倍くらい高く空中へ飛び上がります。初挑戦ではありましたが、なかなか上手く飛べていたのではないかと考えています。

その他にも、バナナボートやジェットボートに乗って、周辺を回遊するレジャーも用意されていました。

マリレジャーを楽しんだ後は、BBQです。海での

BBQは景色もよく、普段食べるお肉より何倍もおいしく感じました。また、赤根会長より海産物の差し入れもいただきまして、全員でおいしくいただきました。



〔牛タンもある BBQ〕

青年委員会のみなさま、今回このような楽しい企画を考えていただきありがとうございます。普段とは違う皆さまと交流することができ、より一層親睦を深めることができましたと思います。

来年も、ぜひ参加したいと思います。

会場の設定、レジャーの準備、食べ物用の用意など大変お忙しい中ありがとうございました。この場をお借りして、お礼申し上げます。



〔参加者全員で記念撮影〕

# 平成30年度中四国若手建築志(士)交流会inひろしま報告

松山支部 武智 良太

開催日：平成30年9月22日(土)～23日(日)  
参加者：3名(山本、辻川、武智)

9月22～23日に広島にて行われた、中四国若手建築志(士)交流会inひろしまに参加させていただきました。

初日は4コースに分かれての選択型イベント。私は「広島平和記念公園周辺散策」に参加致しました。



(おりづるタワー外観)

まず最初に足を運んだのはおりづるタワー。屋上展望台"ひろしまの丘"からは広島市内を一望できます。屋上階からスパイラルスロープ"散歩坂"を伝って12階"おりづる広場"へ。ここで折ったおりづるを、建物正面のガラス張りの「おりづるの壁」に投入。壁にはすでに1/3程の折り鶴が積み上げられており、4～5年後には最上部まで積み上がる見込みなのだそうです。久しぶりに折る「おりづる」に悪戦苦闘しましたが、無事おりづるを投げ入れる事が出来ました。



(広島平和記念公園)

続いて平和記念公園を散策。ここには過去にも訪れたこ

とはあるのですが、今回は丹下健三氏の意図に着目して歩いてみました。

訪れるたびに目に映る光景には変化があり、何かしら新しい発見があるものだということを実感した次第です。



(懇話会の様子)

夜は広島市内にて懇親会が行われました。中四国各県の皆様と、お酒を交えながら有意義な意見交換をさせていただくことが出来ました。



(カートレースの様子)

2日目は、スポーツランドTAMADAにてモータースポーツ体験。このスポーツランドTAMADAは4年前の豪雨災害における被災施設のひとつでもありましたが、災害からの復興をその目で確認するという趣旨もありました。

なお、モータースポーツ体験においては、愛媛県参加者チームはカートレース団体3位の好成績を収めることが出来ました。

中四国若手建築志(士)交流会、私は今回で2度目の参加となりますが、貴重な体験に有意義な情報交換と、今回も実り多い2日間を送らせていただきました。また次の機会にも是非参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

# 第28回全国女性建築士 連絡協議会に参加して

委員会報告

女性委員会委員 永井 由起

平成30年7月28日(土)～29日(日)に逆走する台風が迫る中、高知市・高知県立県民文化ホールで開催されました全国女性建築士連絡協議会に参加してきました。愛媛県からの参加は9名でした。



今回のテーマは「未来へつなぐ居住環境づくり ～一周おくれで先頭に 伝統こそ最先端～」でした。

一日目は被災地の現状報告として、東日本大震災で被害を受けた宮城、福島、熊本、更に今年6月に起こった大阪府北部地震についての報告がありました。

基調講演は地元の建築家で「土佐派の家」などの著作で知られる山本長水氏が大会テーマをもとに、氏がこれまで手がけてきた、地元の材木で伝統構法を用いながら現代の生活・用途にあった住宅や施設について解説いただきました。木造3階建ての県営住宅を、杉大径材で燃え代設計、外部木製建具としながら、耐火・遮音を実現したお話は興味深く拝聴しました。

二日目の分科会はA分科会「防災への取り組み」、B分科会「建築女子がきづく未来」、C分科会「歴史的建造物と建物再生」、D分科会「会員拡大に向けた取り組み」、E分科会「自治体連携とまちづくり」、F分科会「「地産材」活用の取り組み」、G「高齢社会と住まい」、H分科会「既存民家の活用」の8つのテーマで行われました。

わたしは昨年、ヘリテージマネージャーを受講したこともあって、C分科会「歴史的建造物と建物再生」に参加しました。大阪市住吉区に残る蔵を「住吉蔵部」が平成23年から継続して行っている調査の活動報告でした。調査当初は地域に106棟あった蔵も、平成27年の時点で97棟となり、徐々に解体が進んでいる実態があります。老朽化や維持管理の難しさ、駅前開発などの事情で解体はやむを得ないまでも、解体する前に実測調査などをし、図面と模型を作成してその蔵の存在を後世に残す運動をされています。調査をもとに冊子にまとめて展示会を開き、研修会や街歩きに繋げ、蔵を所有する人の意識改革(価値の再発見)に寄与し、所有者や蔵づくりに携わる人達との情報の共有化、職人の技や知

恵の紹介、継承を担いたいとのことでした。この分科会では、蔵の窓は関東では両開き、関西では片開きであると教わりました。実際、住吉ではすべて片開き、帰ってから埼玉の川越の蔵の写真をみると両開きでした。見ても、見えていないことが多いと知った分科会でした。大阪府内の歴史的建造物を「大阪文化財ナビ」<https://osaka-bunkazainavi.org/>で紹介しています。ご興味のある方は御覧ください。



(C分科会会場)

閉会式前に各分科会の報告がありました。他の分科会も興味深く、可能ならまた別のテーマの分科会にも参加したいと思いました。途中、ほとんどの人が携帯電話の音が鳴らない設定にしているにも関わらず、強制的に発する台風に関する災害情報の音が一斉に鳴り響いたときは驚きました。(警報解除情報でした)



(各分科会報告)

初めての全健女参加でした。各県の様々な活動をされている方のお話も楽しく、懇親会でお隣に座られた方がかつての勤務先の所長の知人であったなど、思いがけない出会いもありました。二日間という日程でしたが、今後の生活や活動に活かしたいと思う、とても内容の濃い時間でした。

# 女性委員会主催 スキルアップセミナー2018 「地震に負けない家造り～人命と財産を守るために～」

女性委員会委員 叶 貴美

開催日 平成30年8月29日(水) 18:30～  
場所 松山市民会館2階第3会議室  
参加者数 36名

残暑の8月29日、スキルアップセミナー2018に参加してきました。平日の夕方にも関わらず会議室は満席です。地震の頻発する昨今、構造知識を磨こうという方々が増えているのではないのでしょうか。講師は、全国各地で構造塾を主催されている佐藤実先生です。1年のほとんどを出張先で過ごされているそうで、お忙しい中、建築士がやらなければならない事、伝えなければならない事をわかりやすく語って下さいました。

今回のセミナーでは、先生の楽しい自己紹介から始まり、木造住宅業者としてのあり方や木造住宅の性能について、熊本地震と大阪北部地震の被害状況について、木構造及び地盤と基礎の変状などについてお話を頂きました。

まず、木造住宅業者のありかたや性能について。お客様に、構造計算する・しないとか、耐震等級1・2・3どれにしますか？選んでください！こんなこと本気で提案していませんか？というお話。実務で耳にしたことのある話でないかと思えます。

例えば、自動車を購入する際、予算やデザイン、省エネや用途など様々な選択肢があります。あなたは自動車を購入したいと考えています。燃費のとても良いプリウスは100万円高く、燃費の少し悪いプリウスは100万円安いです。さあ、どちらを選びますか？そして安全性能にも種類があり、エアバックが選択できます。普通・ちょっと多め・すごく多めです。多めはなんと1.5倍。

## 自動車を選ぶとき



こんなおかしな選択肢があったら、プリウスが欲しくなくなるかもしれません。住宅性能をこの話に重ねると、

そんな選択肢は必要ないですよ。大切なのは、その性能を明確にすること、耐震等級表示や燃費表示をしていくことだと教えて頂きました。

2016年熊本地震では多数の木造住宅が倒壊しましたが、1995年阪神淡路大震災での多数の木造住宅の倒壊から何も変わっていない…のお話。建物の倒壊メカニズムをシュミレーションで見せて頂き、あらためて耐震等級3の必要性を実感しました。

木構造のお話では、木材・木質材料の基礎知識から横架材の簡易計算など、難しい計算も図解で分かりやすく解説して下さいました。梁の間柱欠損部は、現場でも見たことがあるので、破壊実験写真には少しドキドキしましたが、現場にある材料で補強できる方法や、瞬時に計算する方法などをご指導頂きました。

地盤については固い地盤を羊羹、軟らかい地盤をプリンに例え、強く揺れるプリンの地盤の地表は、地下深くの岩盤に比べ5～10倍揺れ、揺れが3倍になると震度は1大きくなるそうです。軟弱地盤の恐ろしさを認識しました。

木造住宅は二極化して行く！

■精度の高い地盤調査と判定  
■構造計算書  
■長期優良住宅関係書類  
成果物を見せることができる安心感

■地盤調査は安い方がお得！定  
■構造計算は不要  
■長期優良住宅は無駄  
ごまかすような住宅づくりはやめましょ

地震の被害状況などからも、耐震等級1の家は、家族の命を守るが、もう住めなくなるということ。耐震等級3の家は、地震後も住み続けられて、命も財産も守ること。このことから、お客さまに耐震等級を選んでもらうという選択肢があってはならないのではないかと思います。今一度、木造住宅の耐震性能について、本気で考えていかなくてはなりません。

最後には、日ごろ実務で悩んでいる構造質疑を先生に詳しく回答して頂き、身近な疑問の解決に心もさっぱりしました。そして難しいことを分かりやすく相手に伝えるという伝え方も大切です。木構造と伝え方を学ぶ、良いスキルアップになりました。

# 建築士会入会を通して自分に できること

けんちくの輪

5

四国中央支部 受川 亮太

四国中央支部の稲村さんよりバトン受け取りました、同じく四国中央支部の受川と申します。建築士会に入会してまだ半年足らずですが、当士会を通して多くの方々とふれあい、切磋琢磨していきたいと考えております。

私は、以前は建築関係の仕事はしておらず、大学では情報システムに関する学科を専攻していました。卒業後は、東京でIT企業に入社し、約5年間、システムエンジニア(SE)として大手建設機械向けシステムの開発と保守運用に携わっていました。実家が建設会社を営んでいた経緯もあり、4年ほど前に転職を決意し現在に至っています。全くの未知の業界に飛び込むことについて、もう一度ゼロからスタートを切るとはとても不安がありましたが、素人の私にとっては、どうやって建物が出来ているのか、現場ではどんなことがされているのかなど興味もありました。どのように現場が動いているのか、実際に自分の目で見たり、そこで働く職人さんたちと積極的に話や相談などして色々なことを教えて頂いている毎日です。

そんな中、ある現場で稲村さんと知り合い、「建築業界にいて、若い!」という理由で建築士会のお誘いを頂きました。私は、まだ建築士になっていないという理由でお断りしていたのですが、これから建築士を目指す自分にとっても建築士の方々と交流ができるいい機会かなと思入会することを決めました。

入会してからは、青年委員会の活動が本格的に始まり、定例会や地域イベント活動に参加してきました。



(紙まつり活動状況)

先日行われた地元の地域イベント「紙まつり」では、

釘と毛糸を使ってストリングアートを実施しました。はじめて釘を触ったり、金槌を使った子も多かったようで、このイベントを通して一緒に「ものづくり」の楽しさに触れることが出来たと思います。

青年部の定例会の中でよく議論に挙げられるのが、「若手職人不足の深刻化」と「建設業界に対する悪イメージ」があります。私自身、転職以前は建設業界に対して3Kという言葉の印象が強く、良いイメージは持っていませんでした。しかしそれでも、新しく家や建物を建てたり、傷んだ建物は修繕したりと「建築」はこれから先も必要不可欠ですし、それに携わる職人や設計士も必要不可欠だと感じています。難しい問題かもしれませんが、これから10年、15年先、地元で職人さんや技術が失われるために自分たちに何ができるのか、委員会メンバーの中で日々議論し模索しています。



(青年委員会の会議風景)

テレビや雑誌を見ている「スマートハウス」や「IoT住宅」といった言葉が少しずつ話題になっていますが、自分の持っているITの知識やこれまでの経験を何か建築の世界でも生かすことが出来れば良いなと考えています。また、当士会を通して「建築」の新しい技術や知識など積極的に触れていきたいですし、同世代のメンバーからたくさん刺激を貰って頑張っていきたいと思います。

今回は、同じく四国中央支部メンバーである高橋さんにバトンを繋ぎたいと思います。



# 建築と私

松山支部 内田 香織

宇和島支部 山田千尋さんからバトンを受け取った、内田と申します。こんにちは。「いしづち」をご覧の皆様、ご機嫌は如何でしょうか。秋風が気持ちの良い今日この頃ですが（原稿を書いているのが九月下旬です）きっと掲載時には寒くなっているかもしれないですね…。

私は、大きな声では言えないのですが、実はあまり建築士会の活動に参加できておらず、なんというか幽霊的な感じなのに、こんな立派な会報誌に掲載していただくなんて身に余る光栄です。んが、何を書いたら…と悩んでいました。あと、経歴がちょこっとばかり変わっているの「建築士資格」を取得して建築の仕事に関わっているといっても、どことなく異邦人のような気持ちで居る、そんな感じです。すみません、なんとなく。

私は美術大学で広告デザイン（平面）を学び、そのあとに広告代理店に新卒で行ったは良いものの、直ぐに飽きてしまい契約満了とともに退社、物作りの仕事から離れて一年ほど幼児向け英語塾で働き、やっぱり立体物（家具とかプロダクトデザイン）が好きだあ！と店舗デザインの世界に飛び込みました。そのあとは工務店の工務部で働き、ハウスメーカーに勤める、職業訓練校に行く、アトリエ系設計事務所に勤める、など、その時に気になる所に気の向くままに行く、渡り鳥のように割と自由に楽しく建築畑を渡り歩いてきた感じがします。今から考えても楽しかったなあ。

いろんな現場があり、いろんな建築があり、そしていろんなお施主さんがいて毎日がまさにキラキラしていたと同時に、一筋縄ではいかない現場、曲者ぞろいの建築関係者各位、スリリングすぎる予算オーバー、そして意匠を変えても落ちない金額、上司の謎の指令、などなど。

そんなこんなありつつ、片手で足りない職場を転職し、今現在は訳あって三つ仕事を掛け持ちしています。

介護施設の運営と設計士と専門学校の非常勤講師の三足のわらじです。自分で言うのもなんですけど、この着地点もなかなか微妙だな…けど、これがまた「介護」「建築」「教育」といった三分野で自分のなかで日々の出来事や悩んだり工夫することが影響しあっていて、面白く毎日過ごしています。この掛け持ち生活をするようになってから、建築設計事務所だけに勤めていた時よりも、たびたび建築とは…暮らしとは…と考えることが多くなりました。いしづちの原稿を書かせて頂くにあたって、日々思うことを皆様とシェアできたら幸いです。

介護の仕事では、高齢の方々の生活支援サポートなどをすることや施設入所した後の精神的なケアや、病院の退院時に要請を受けて面談に行くことがあります。

その際に、やはり住み慣れた家に帰りたい方が大半なのですが住宅改修を済ませた家でもなかなか生活動作が難しく、同居家族の介護負担が減少しないので施設に、というケースが多々あります。また、認知症のために見当識障害があり住み慣れた家のはずが「落ち着かない」気持ちになったり、段差を出来るだけなくしたけど、逆に慣れていた通路に対して足の裏の「いつもの感覚」の馴染みがなくなって転倒してしまったり。手すりを付けること一つでも、奥が深く難しいものだなと思う事があります。お年寄りにはそれぞれの個性があり、ストーリーや歴史があります。お話すると楽しい発見があったりして、それを建築に生かせないのかなあとと思います。

1人のお年寄り、中規模の図書館の蔵書と同等の知識や経験や思い出があるといいますが、まさにそうだなあと実感します。

その一方、専門学校に建築の事を教えに行くと、18歳くらいの若くて元気な学生たちが沢山いて、これから建築の仕事に就くという希望をもって勉強や課題に励んでいます。彼らと接していて思うのは、やっぱり発想の瞬発力がすごく面白い子が多いなということです。経験があまりなくセオリーも知らないで突拍子もない考えで驚かせられると同時にその手があったか！と意表を突かれることもあります。建築に進もうと決めていて、なんだったら行きたい会社も決めていたり、親の工務店を継ぐ子、なんとなく入ってきたっていう子も含めて、皆、いい種もっています。私はぜひ建築の力で、高齢者の暮らしをもっと楽しくて安心できるクリエイティブなものにしてもらいたいと思っています。そのためにも、建築の世界が深く面白くて広い、豊かなものであるし沢山の素敵で面白い人との出会いがある場所だということ一人でも多くの学生に伝えられるといいな。

なんだかまとまりのない、レロレロした感じになってきてしまいましたが、私もいい具合に今している仕事をリンクさせて「いい空間」や「楽しい暮らしの場」を作れないか模索中です。また、皆様とどこかでお会いできる場があれば、ぜひプロの意見を伺いたいのでお声がけください。どうぞよろしくお祈りします。

# 事務局からのお知らせ

## 平成30年7月豪雨災害の義援金の報告

事務局

平成30年7月豪雨により被災された方々を支援する為、義援金を募集しておりました。

公益社団法人日本建築士会連合会より20万円  
 建築士会東海北陸ブロック会より10万円  
 建築士会中国四国ブロック会より10万円  
 愛媛県建築士会会員のみなさまより4万円  
 の義援金が集まりました。

上記に公益社団法人愛媛県建築士会からの6万円を含めて合計50万円となりました。暖かいご支援をありがとうございました。集まった義援金は愛媛県へお渡しいたします。

### 建築士会館の建替え工事が始まりました

会員の皆様方のご協力により、会館の建替え工事について次のとおり、建築業者が決定し、着工する運びとなりました。

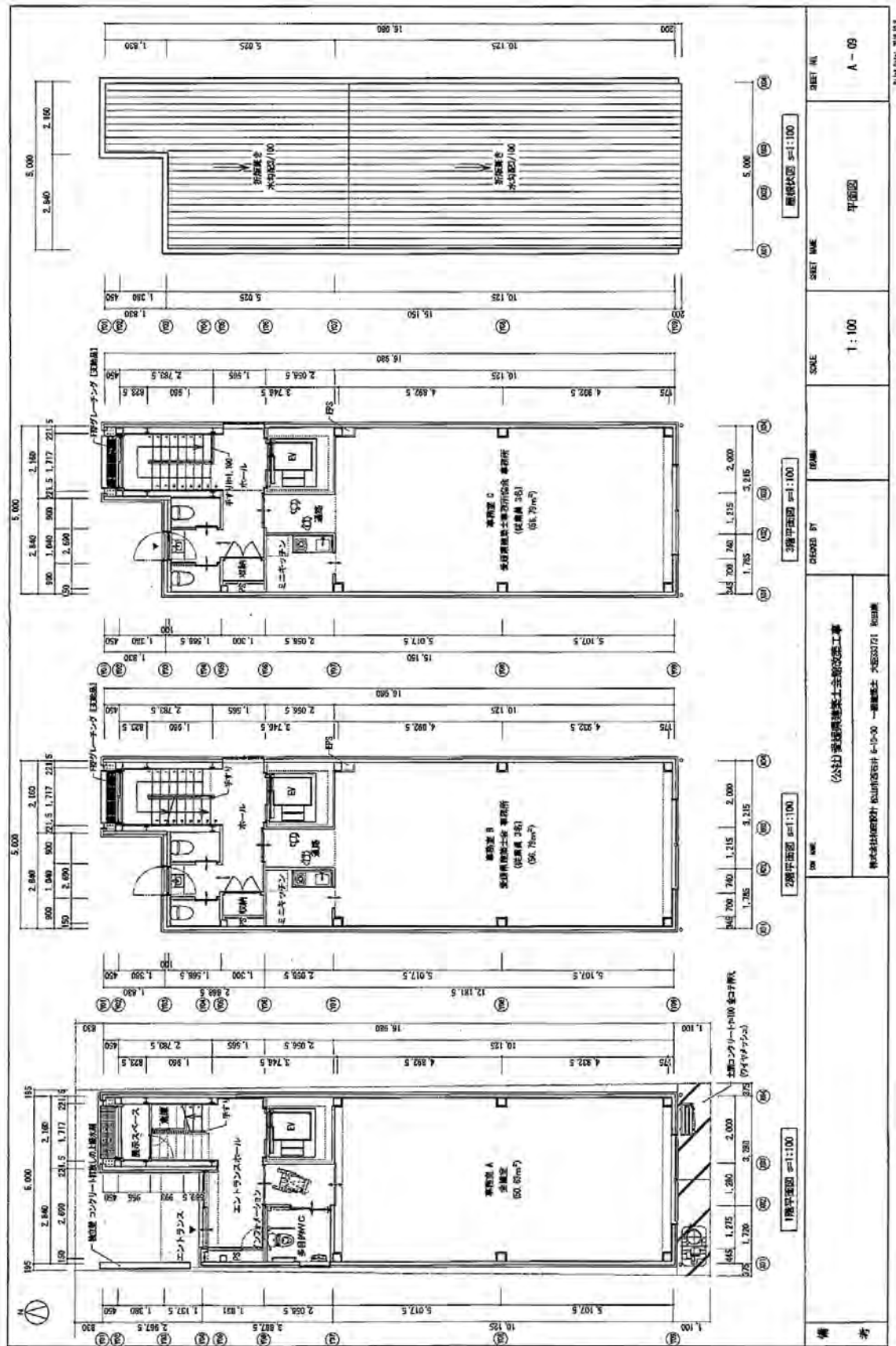
1. 建築業者について 松山土建株式会社
2. 請負金額について 70,740,000円
  - 内 工事価格 65,500,000円
  - 消費税額 5,240,000円
3. 工期について
  - 着手 2018年10月1日
  - 完成 2019年5月15日
4. 建築概要について
  - (1) 構造 鉄骨3階建て
  - (2) 延べ床面積 237.46㎡
  - (3) 用途
    - ・1階 会議室（貸会議室）
    - ・2階 建築士会 事務所
    - ・3階 建築士事務所協会 事務所
5. 会員からの貸付金及び寄付について
 

建設資金が不足しているため、会員からの貸付金及び賛助会員ほかからの寄付金を募集していますので、ご協力をお願いします。

  - (1) 建築士会館建替え経費 7,950万円
  - (2) 償還計画
    - ・銀行借入金 6,500万円
    - ・会員借入金 500万円（目標）
    - ・寄付金 1,000万円（目標）

※募集状況（H30.10.10現在 見込み額含む）

  - ・会員借入金 107万円 達成率 21.4%
  - ・寄付金 840万円 達成率 84%



備考	社団法人建設業振興会 設計士会 6-10-00 一般建築士 20230321 0204		
	(公社) 愛媛県建設士会 改訂工事		
欄	図名	縮尺	シート名
	1階平面図 1:100	1:100	平面図
	2階平面図 1:100	1:100	平面図
	3階平面図 1:100	1:100	平面図
	4階平面図 1:100	1:100	平面図
	5階平面図 1:100	1:100	平面図
	6階平面図 1:100	1:100	平面図
	7階平面図 1:100	1:100	平面図
	8階平面図 1:100	1:100	平面図
	9階平面図 1:100	1:100	平面図
	10階平面図 1:100	1:100	平面図
	11階平面図 1:100	1:100	平面図
	12階平面図 1:100	1:100	平面図
	13階平面図 1:100	1:100	平面図
	14階平面図 1:100	1:100	平面図
	15階平面図 1:100	1:100	平面図
	16階平面図 1:100	1:100	平面図
	17階平面図 1:100	1:100	平面図
	18階平面図 1:100	1:100	平面図
	19階平面図 1:100	1:100	平面図
	20階平面図 1:100	1:100	平面図
	21階平面図 1:100	1:100	平面図
	22階平面図 1:100	1:100	平面図
	23階平面図 1:100	1:100	平面図
	24階平面図 1:100	1:100	平面図
	25階平面図 1:100	1:100	平面図
	26階平面図 1:100	1:100	平面図
	27階平面図 1:100	1:100	平面図
	28階平面図 1:100	1:100	平面図
	29階平面図 1:100	1:100	平面図
	30階平面図 1:100	1:100	平面図
	31階平面図 1:100	1:100	平面図
	32階平面図 1:100	1:100	平面図
	33階平面図 1:100	1:100	平面図
	34階平面図 1:100	1:100	平面図
	35階平面図 1:100	1:100	平面図
	36階平面図 1:100	1:100	平面図
	37階平面図 1:100	1:100	平面図
	38階平面図 1:100	1:100	平面図
	39階平面図 1:100	1:100	平面図
	40階平面図 1:100	1:100	平面図

1/18 0400 2018.04.13

## HOUSE



有紀子の家のドアは真っ白で、玄関に入ると新しい木と塗装剤の香りがした。どうぞ、と出された室内スリッパは有名ブランドのマークが付いていて、足をふんわりと包み込む。吹き抜けのホールを見上げると、照明つきの天井扇が緩やかに回っていた。

廊下の突き当り、両開きの大きなドアを開けるとLDKの空間が広がる。輸入物のアイランドキッチンに合わせて買ったというマホガニーの食器棚は、おそらく数百万はするだろう。イギリスのアンティークをリメイクした、長いソファの真ん中に座るよう勧められて私は恐る恐る腰かけた。深い背もたれに身体をあずけると足が宙に浮く。

「実穂が来るから、カップケーキを焼いたのよ」

有紀子はウエッジウッドのティーセットをテーブルに並べて口角を上げた。私は彼女のそういうところにうんざりする。

1週間前、私は自分へのご褒美として、ウエッジウッドのマグカップをひとつ買った。苦勞した仕事がよく一区切りして、小さな苺柄のカップを会社で使おうと奮発したのだ。有紀子から、新居に引っ越したから遊びに来てね、と誘われた時、なんとなくその話をしたのだ。

「実穂はいいよね、結婚もせずに自由でいられて」

カップケーキが乗せられた皿もカップと揃いで、たちまちテーブルの上は華やかな苺模様でいっぱいになる。

「そんなことないわよ、部下はワガママだし」

私はあえて、部下、という言葉を選んで言う。案の定、有紀子の口角が下がった。同じ制服を着ていた頃から、有紀子は何か問題が起こると、私に意地悪をした。アプリコットティーの甘い香りに、お互いにプライドというエッセンスを加えて飲むと、懐かしい空気が流れる。

「ほんとは西陽が当たるキッチンが嫌なのよ」

ため息と同時に有紀子の言葉に、でも仕方なかったのでしょうか？と私は応えた。

「言っても仕方のないこと、なんだけどね」

彼女は自身に言い聞かせるように、下を向いた。

有紀子と私は私立の小学校からエスカレーターで大学まで進み、大手航空会社の客室乗務員になった。つまり彼女とは小中高だけでなく、就職してからも同じ制服を着ていたわけだ。しかし会社の経営難が公になり岐路に立たされた時、有紀子は見合いをして代々開業医の息子と結婚、私は転職したのだ。

「裕史さんは相変わらずなの？」

「ずっとあっちの家に居る。子供も、もうパパの話をしなくなったわよ」

有紀子のカップケーキは本当に美味しかった。料理上手の彼女は、豪華なキッチンで完璧な手料理を作り家族に振舞うはずだったろう。しかし、夫の裕史が妻の手料理を食べることはもう、おそらくない。「毎朝、お母さまのお味噌汁を飲まないで体調が悪いんですって。だから朝食は家で食べないのよ」

有紀子からそんな話を最初に聴かされてから7年になる。当然、有紀子は姑に味噌汁の作り方を習いに行ったが、夫は、なにかが違う、と言って食べない。3年ほどは朝食を食べに実家へ通っていたのだが、そのうち面倒だと言って泊まり込むようになった。彼の実家が経営する産婦人科は真夜中の出産も多く、すぐ隣に建てられた実家での寝泊まりは確かに便利だ。しかし、この不自然な生活に堪り兼ねた有紀子が病院の側のマンションに引っ越すことを提案した。

「なんでそんなに引っ越したいんだ？今の家は不便なのか」

きつい口調で問いただされた夫に有紀子はいってしまった。

「だってアナタも通勤に大変だし。キッチンも使いにくいのよ」

「僕はあっちの家があるから全く不便じゃない。キッチンが気に入らないのなら、好きに家を建てればいい」

こうして今、私が招待された家が建てられた。

「翔も自分の部屋が広がったって喜んでるし」

「そうなんだ、子供部屋見せてよ」

私は西陽から逃げるように席を立つと、また有紀子の口角が上がった。

「これ、キッチンに下げとくね」

私はカップケーキの皿と自分の飲んだティーカップを重ねてキッチンへ運ぶ。シンクに置くと、口紅の付いた煙草の吸殻が捨てられていた。

「有紀子、吸うの？」

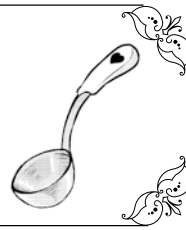
「うん。昼間、少しね」

「ああ、子供には煙草はダメよね」

「翔じゃなくて、裕史さんよ」

私は、でも帰って来ないじゃないの、という言葉飲み込んで、子供部屋までついて行った。私を案内して先に二階へ上がる彼女の足元には、来客用とは異なる高級ブランドのマークがついたスリッパが、パタパタと音をたてる。その音が、私には喜々として聞こえ、下唇を噛んだ。

## 第2話 Kitchen

田眞 夕楽  
たま ゆら

ブレイクコーナー

7

「やっぱりアンタは変わらない」

私の眩きが聞こえてしまったのか、有紀子は踊り場で立ち止まると、この手すり、ちょっと素敵でしょ？と笑った。

裕史の実家は純和風の作りで、12畳の居間と8畳の台所が廊下で分離されている。南面の客間と仏間を仕切った襖を取り除くと30畳ほどの空間になり、正月には病院の職員達にお節料理が振舞われるのが慣例となっていた。私が最初にこの家を訪れたのは7年前の正月だ。航空会社とは全くの畑違いの製薬会社に転職した私が、次々と新規を開拓できたのは、裕史のお陰である。

「実穂さんが毎朝、毎晩来てくれて、本当に助かるわ。私もこんなふうに自由が利かないし。でもウチの台所、使い勝手が悪いでしょう？」

「いいえ、私はここのキッチン好きですよ。育った家に似てるんです」

車椅子に座ったまま、エンドウ豆を剥いている裕史の母親の直ぐ横で、私は米を研いでいる。

「今夜はなに？早く食べとかなないと、出産予定の人が3人もいるんだ」

居間から裕史の声がした。

「炊き込みご飯にしようと思うの。ガスで炊くからすぐできるわ」

「米はガスで炊くのがいい」

テレビを観ていた父親の声も聞こえる。

「でも、ここには高価な電気炊飯器があるじゃないですか」

「親父は、実穂の炊くご飯がいいんだってことだよ」

私は剥き終わった黄緑色のエンドウ豆を鍋に入れ柔らかくなるまで煮てから、椎茸や人参、細かく刻んだ里芋と混ぜ合わせた。米を炊く鍋にはやや多めの水、風味を出すために味噌を少し入れる。すべての食材を入れてガスコンロのスイッチを捻ると、パチパチと小さな火が散った。なにもかも、最初は小さな火から始まる。そして、最後には誰もが感嘆するような美味しい炊き込みご飯が出来上がるように、私の人生は完成するだろう。

「里芋が小さくて食べやすいわ」

総入れ歯の母親は喜んで食べている。鮮やかな黄緑の粒が散ったご飯は、本当にほっくりと炊けていた。

「実穂は明日休みだろう？泊まって行けよ」

台所で後片付けをしている私の後ろで、裕史は囁

く。いつの間にか、彼の母親が着けていたエプロンを、殆ど私が着るようになっていたが、この家の誰もがそれを自然のこのように思っていた。

代官山の緩やかな坂道から逸れて、細い石畳の階段を上ると有紀子の好きなカフェがある。約束の時間に10分遅れて、私は店のドアを開けた。窓際の席に有紀子は座っている。ずっと長かった髪をベリーショートにして深紅のワンピースを着ていた。耳には大きなゴールドのピアスが揺れている。

「息子の親権も家も全部くれたわ」

私が席に着くなり、彼女は右手に持っていた煙草を灰皿に押し付けて話し始めた。

「跡取り息子なのに、よくあちらの両親が手放したわね」

「あっさりしたもんよ。まるで私から離婚を切り出すのを待ってたみたい」

有紀子は大きな瞳で私を真っすぐに見て言った。

「で、今は実家暮らし？」

私は手を膝の上に置いた。テーブルに乗せていた指先が震えていたからだ。

「実家天国よ。両親は孫をあっちの家に遠慮することなく思いっきり可愛がってくれるし」

「あの家はどうするの？」

「売ることにしたわ。不動産屋が言うには最低でも1億で売れるって」

今度は、私が正面から有紀子に視線をぶつける。

「それで本当にいいの？」

彼女はあっさりした笑顔で

「だって、西陽の当たるキッチンは嫌いだって言ったでしょう」

そうだ。すべてこれでよかったのだ。彼女は自由になれたし、私もとても満足だ。膝の上に置いた手が、自然とお腹を擦っていた。ここには裕史の家の、跡取りが生きている。悪阻のせいで全く食欲がない。テーブルの上には、有紀子が作ったものよりも洗練された、この店のカップケーキが手つかずのままだ。

ふたりはしばらく、無言のままそれを眺めていた。

了



カット 高区はるほお

## あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしていきます。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承下さい。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

平成31年 1月号(126号) 平成30年11月22日(休)

※ 校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※ 1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかも知れませんので、予めご了承下さい。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がれば、と願っています。

情報・広報委員会

## 読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せ下さい。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛

— FAX 948-0061 —

## 編集後記

最初に委員長になり、「いしづち」を編集している時に思いました。

新たな取り組みをしたい。と思う気持ちはあるけれど、提案はできても、実際、手を付けるとなると、いろんな方の評価が気になり動けないものだ…。

その時に、今の情報・広報委員の皆さんと話をしていると。

この仲間がいるから楽しい。仲間がいるから前進できる。と思いました。

それは、いつも編集会では仲間が笑顔だからです。

例えば評価が悪かろうと、嫌なことがあっても、みんなが笑顔でいてくれるから忘れられると思いました。

仲間の笑顔は、生きていくのに絶対に必要なパワーになります。

笑顔の仲間がいると、どんな事でも何倍も何倍も何倍も楽しくなります。

みんなにとって良き仲間はあなたで、あなたの笑顔がみんなのパワーになります。

(大平将司)

## 〈いしづち〉2018/11

平成30年11月発行

発行人 **会長 赤根 良忠**

発行所 **公益社団法人 愛媛県建築士会**

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5

TEL (089)945-6100 FAX (089)948-0061

http://www.ehime-shikai.com E-mail: info@ehime-shikai.com

印刷所 **明星印刷工業株式会社**

情報・広報委員会・広報委員

委員長 **大平 将司** 副委員長 **渡邊 道彦**

編集委員 **大上 恵子** **山本 晶子** **政石 信行** **白石 学** **武智 良太** **成松 弘之助**